

2023年度(第52期)決算について

- ・輸送人員は前年度比 9.4%増の 38,625 千人(2019年度比1.3%減)
- ・営業収益は前年度比 4.5%減の 133 億 1 千 2 百万円(2019年度比25.0%減)
- ・営業利益は前年度比 6.9%増の 30 億 3 千 6 百万円(2019年度比 27.0%減)
- ・当期純利益は前年度比 6.5%増の 18 億 7 千 2 百万円(2019 年度比 28.5%減)

1. 2023 年度決算の概要

当期におけるわが国経済は、5 月に新型コロナウイルス感染症法上の位置付けが「5類感染症」に移行し、企業収益の改善や賃金の上昇、個人消費の持ち直しが見られるなど、緩やかな回復基調となりました。一方、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、円安や物価上昇、日銀のマイナス金利の解除などにより、先行きについては引き続き注視が必要な状況にあります。

こうした状況の中、鉄道事業者にとって最大の使命である「安全」「安心」「安定」輸送を継続的に提供する取り組みとして、自動列車停止装置の改良(C-ATS化)工事や各種設備の更新工事などを実施しました。

増収に向けた取り組みについては、保有資産の有効活用を推進するとともに、記念乗車券の発売や多数のイベントを開催したほか、SNS や Web サイトを活用した情報発信を積極的に行い需要喚起に努めました。また、沿線自治体などと連携した様々な沿線活性化施策を実施するなど、北総エリアの魅力向上や運賃値下げによる効果の発現を目指した取り組みを精力的に推進しました。

以上により、当期の輸送人員は新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に加え、2022年10月に実施した運賃値下げも奏功し、前期に比べ3,312千人、9.4%増の38,625千人となりました。

表① 輸送人員と旅客運輸収入

		2023年度	前年比
輸 送 人 員	定 期 外	千人 13,539	% 11.4
	定 期	25,087	8.3
	合 計	38,625	9.4
旅客運輸収入計		百万円 10,530	% 0.8

当期の営業収益は、輸送人員は増加したものの、運賃値下げや千葉ニュータウン鉄道との線路使用料契約の変更もあり、前期に比べ6億2千2百万円、4.5%の減となる133億1千2百万円となりました。

営業費については、千葉ニュータウン鉄道との線路使用料契約の変更や動力費の減少に加え、安全の確保を前提に最大限のコスト削減に努めた結果、前期に比べ8億1千8百万円、7.4%の減となる102億7千6百万円となりました。

以上により、営業利益は30億3千6百万円と前期に比べ1億9千6百万円、6.9%の増益、経常利益は27億1百万円と前期に比べ1億7千3百万円、6.9%の増益となりました。

これから法人税等を差し引いた当期純利益は、18億7千2百万円と前期に比べ1億1千4百万円、6.5%の増益となりました。

表② 比較損益表

(単位:百万円)

	2023年度	2022年度	差	増減率 (%)
営業収益	13,312	13,935	△622	△4.5
営業費用	10,276	11,095	△818	△7.4
営業利益	3,036	2,839	196	6.9
経常利益	2,701	2,528	173	6.9
当期純利益	1,872	1,758	114	6.5

2. 今後の課題への取り組み

当社は、関係者の長年にわたるご支援により、2022年度に繰越損失を解消し、運賃値下げを実施することができました。一方で、未だ約541億円という巨額の有利子負債を抱えているほか、円安の進行や物価・人件費の高騰など、今後も厳しい経営状況が続くものと見込まれます。また、沿線人口の高齢化の進展に加え、新型コロナウイルス感染症による勤務形態や生活様式の変化も定着しつつあり、輸送需要の先行きも懸念されるところです。

こうした状況を踏まえ、当社は今後の課題について以下の通り取り組んでまいります。

(1)安全に対する取り組みの強化とサービスの向上

安全の確保は鉄道会社にとって最大の使命であり、事業存立の基盤でもあることから、安全管理体制の更なる強化を図ってまいります。

また、お客様へのサービス向上については、京成グループが総力をあげて取り組んでいるBMK(ベストマナー向上)推進運動に積極的に参加していくことなどにより、お客様から信頼され、選んでいただける鉄道を目指してまいります。

(2)財務体質の健全化

当社の使命である「安全」「安心」な輸送サービスを将来にわたって「安定」的に提供していくためには、今後とも相当規模の安全投資、サービス改善投資を行っていく必要があり、そのための資金需要の増大は避けられない状況にあります。

こうした状況を見据え、今後とも一層の経費の節減・業務の効率化を進めるとともに、巨額の有利子負債に鑑み、金利動向に留意しつつ円滑な資金繰り確保の

ため、財務体質の一層の健全化に向けて引き続き取り組んでまいります。

(3) 次の時代に向けた新たな経営の推進

当社は今後の事業運営について、人口減少や輸送構造の変化に的確に対応すべく、2022年度に「自律」「戦略」「連携」を基本方針とする成長戦略ビジョン『Next Hokusō』を策定しました。この中で、個別の戦略として「輸送サービスの向上」「トップライン(売上)を上げる」「沿線事業基盤の拡充」「効率的な事業推進」「人材戦略・企業PR戦略」の5つの柱を設定したところであり、これらの戦略に基づき具体的な施策を積極的に展開していくことで、沿線関係者の皆様と連携しながら「鉄道事業+α」の会社を目指してまいります。

以上の通り、当社が果たすべき使命・課題について、今後も全社一丸となって取り組んでまいります。

北総鉄道株式会社 2023年度(第52期)決算資料

貸借対照表

(2024年3月31日現在)

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
資産の部	百万円	負債の部	百万円
流動資産	10,516	流動負債	10,476
現金及び預金	1,201	短期借入金	1,459
未収運賃	860	一年内リース債務	13
未収金	1,904	未払金	6,240
貯蔵品	311	未払消費税等	162
その他の流動資産	6,238	未払法人税等	566
		未払費用	149
		預り連絡運賃	594
		預り金	12
		前受運賃	1,016
		前受収益	41
		賞与引当金	173
		その他の流動負債	47
固定資産	80,133	固定負債	53,111
鉄道事業固定資産	78,392	長期借入金	16,050
各事業関連固定資産	857	リース債務	26
建設仮勘定	661	長期未払金	33,645
投資その他の資産	222	退職給付引当金	2,847
繰延税金資産	222	役員退職慰労引当金	20
		その他の固定負債	520
		負債の部合計	63,588
		純資産の部	
		株主資本	27,061
		資本金	24,900
		利益剰余金	2,161
		その他利益剰余金	2,161
		繰越利益剰余金	2,161
		純資産の部合計	27,061
資産の部合計	90,649	負債及び純資産の部合計	90,649

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

科目	金額	
	百万円	百万円
鉄道事業営業利益		
営業収益	13,312	
うち旅客運輸収入	10,530	
営業費	10,276	
鉄道事業営業利益		3,036
営業外収益		
受取利息及び配当金	22	
その他の収益	87	109
営業外費用		
支払利息	413	
その他の費用	29	443
経常利益		2,701
特別利益		
工事負担金受入額	2	2
特別損失		
固定資産圧縮損	2	2
税引前当期純利益		2,701
法人税、住民税及び事業税	838	
法人税等調整額	△9	
法人税等計		829
当期純利益		1,872

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。